



ゼロと無限大 の技法

1月3日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

1月3日のおはなし「ゼロと無限大の技法」

あなたは歩く、夜の闇を。乳香を焚きしめたかのように、空気は甘くかぐわしく、深い闇の底にはあらゆる色が渦巻き閃光を放っている。紫の矢印が戯れるように踊りはねながらあなたを導く。誰かの手が扉を開ける。よく知った部屋の中を歩きながら、あなたはそこを初めて通るかのように新鮮に感じている。たくさんの声がささやく。家具が、床板が、履物が、庭木が一斉に語りかけてくる。

月もなく雲のたれ込める夜、あたりは深い淵のような闇に閉ざされているが、その闇さえもがあなたに語りかけてくる。何という饒舌な夜！そしてあなたは歩き出す、闇の声に向けて。耳にでもなく頭にでもなく身体の内芯に響く声。おいで。その声は言う。去れ。同じ声が言う。会いたい、とあなたは思い焦がれ、同時に、会ってはいけない、とあなたは自ら警告する。

足下の石ころが、さあこっちだと道案内をし、いざあなたが通りかかると、足を引っかけた邪魔をする。夜は昼で、太陽が月なのだ。耳元で木々の枝がナンセンスな歌を歌う。遠くから無数の光が近づいてくる。たくさんの小さな光の粒が闇の奥から迫ってきて、いきなりすさまじい光量の光の奔流となってあなたを包み込む。それがいまは厚い雲の向こうに閉ざされた星たちだということがあなたにはよくわかる。

光の渦から解放されると、そこに声の主が立っている。まぶしいほどの光を放っている。そのまぶしさにあなたは目を細めるが、よく見ると声の主は背景の闇より黒く、闇そのものさえも呑み込んでしまうほどに視界をさえぎっている。まぶしいと思ったのはその目だ。目があなたの身体をすみずみまで慈しみ、同時に卑しめる。無条件に包み込む愛と、圧倒的に突き放そうとする憎悪にさらされ、あなたは立ちすくんでしまう。

そこからはもう記憶に留めることはできない。しばらくして人々があなたの不在に気づき、探し始める。庭先の木立の奥で、あるいは近くの公園の物陰であなたは見つげられる。人々が心配するような暴力は受けていないけれど、あなたには受けた傷の鈍い痛みが感じられる。象徴的な刻印。高みへ高みへと導かれ聖なるものに触れると同時に、語ることもできないほど屈辱的な辱めを受けたことも知っている。

夢遊病、と人々は呼ぶ。そして治す手だてを探そうとする。けれどもそれは病などではない。病どころか、能力なのだよ。あなたをすっぽり包み込み、同時にあなたの内側に棲む声が語りかけてくる。目に見えるものは見えた通りでなく、触れたものはそこにはない。闇に潜むすべての色が鳴り響き、伝わる音が身体をまさぐる、内からも外からも。形は味となり、香りが心を震わせる。

余計なのはこれだ。その声はあなたの頭蓋骨の中に無造作に手を突っ込み、大脳皮質をぺらりと剥がしとる。もうあなたはあなたではなく、わたしであり、すべてである。恐怖と歓喜が目一杯の振幅で、同時にあなたを、わたしを、すべてを押し倒す。眩しすぎる暗闇と、耐えきれないほどおぞましいかぐわしさ、快楽と苦痛が、一気に押し寄せ永遠に続く。

すべては無であり、無がすべてなのだ。それが創造というものだ。という声が見える。破壊なのだ。という文字が聞こえる。数えられるものは数えられなくなり、あれとこれとそれはどれでもなくどれでもあるのだ。そしてあなたはわたしになる。そうしてわたしの血族は途絶えることなく広まる。

(「夢遊病」 ordered by living dead girl--san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひよっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

ゼロと無限大の技法

<http://p.booklog.jp/book/41701>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/41701>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/41701>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.